

## 第2回GNEP閣僚級会合 日本代表オープニング挨拶（和訳）

### 1. 序

ボドマン長官、ご列席の閣僚閣下、

（第2回GNEP閣僚級会合開催及び新規参加国へ歓迎の辞）

本日は、5月のワシントンDCでの会合に引き続き、ここウィーンでGNEP閣僚級会合が開催されたことを嬉しく思います。ボドマン長官をはじめとする米国の関係者の尽力に対して謝意を表明します。また、今次会合は、多くのパートナー国が原則に関する声明に署名がなされるなど、GNEPとしての協力の枠組みを創設する重要なものです。本会合において、皆様とともに将来の協力の在り方について議論できることは大変喜ばしく、実りある成果が得られるよう願っております。

### 2. 原子力新時代に向けた動きについて

現在、世界における原子力の位置づけはエネルギーの安定供給と地球温暖化への対応との観点から転換点を迎えていると考えます。

（エネルギー消費の増大に対するエネルギー安定供給の重要性）

今後見込まれる急速な世界的なエネルギー消費の増大は、エネルギー安定供給に対する重大なリスクです。これに対しては、実効性ある対策に早急に取り組む必要があります。

エネルギー消費の大幅な増大が見込まれているアジア地域では、多くの国が、原子力発電を新たなエネルギー源として導入することについて、強い期待を表明しております。

（地球温暖化への対応と原子力への期待（ハイリゲンダム・サミットより））

地球温暖化への対応は、まさに目の前の課題です。先に行われたハイリゲンダム・サミットにおいて、2050年までに地球規模での温暖化ガスの排出を少なくとも半減させることを真剣に検討することが合意されました。地球温暖化への対応策の一つとして、原子力利用の拡大を検討する必要があると認識します。

（原子力の拡大には3Sが必須）

しかしながら、原子力利用の推進にあたっては、原子力安全の確保はもとより、核拡散や核テロリズムの脅威といった負の側面を克服する必要があります。

### 3 . 日本の原子力政策

( 厳に平和利用に限定して推進 )

我が国は、1955年以来、原子力の研究、開発及び利用を厳に平和の目的に限り、人類社会の福祉と国民生活の水準向上とに寄与することを目的に、原子力政策を推進しています。核不拡散への取組については、IAEA保障措置の追加議定書を早期に締結する等積極的に対応してきました。

( 55基を保有し電力の30%を供給、再処理を推進、高速増殖炉を初めとする研究開発 )

現在、我が国は55基の原子力発電設備を有し、約30%の電力を賄っております。また、20年以上にわたって稼働実績のある東海再処理工場に加え、六ヶ所再処理工場が現在アクティブ試験中です。また、次世代軽水炉の開発、原型炉「もんじゅ」をはじめとする高速増殖炉サイクル技術等の研究開発を推進してきております。

( 柏崎刈羽発電所に対する中越沖地震の影響 ( 安全の確保、国際社会との情報共有 )

我が国で、本年7月16日に新潟県中越沖地震が発生しました。震源に極めて近い柏崎刈羽原子力発電所においては、激しい揺れに見舞われましたが、原子炉は設計どおり安全に自動停止し、周辺環境への影響は生じませんでした。しかしながら、当該発電所内にある周辺の設備・機器が多くの影響を受ける結果となりました。現在、同発電所の地震の影響について調査を行うとともに、全ての原子力発電所の耐震安全性の確認を鋭意行っているところです。今回の地震で得られる知見を国際的に共有し、安全対策の更なる向上に役立てていくことは我が国の責務であると考えています。先月、IAEAの専門調査団を受け入れ、調査団の報告書がIAEAを通じて世界に公表されたところです。我が国としては、ワークショップの開催により、得られた知見を世界と共有し、国際的な原子力安全の向上に寄与していく所存です。

### 4 . GNEPについての認識

( GNEPの意義 )

GNEPは、エネルギー安全保障問題と地球温暖化問題という、人類共通の課題の解決に向け、GNEPパートナー国が核不拡散、原子力安全及び核セキュリティに留意しつつ原子力利用を推進できる環境の整備を図るための国際的な協力であると認識しています。

( GNEPと我が国の原子力政策 )

核不拡散、原子力安全及び核セキュリティを確保した核燃料のライフサイクル利用を行いながら原子力発電を進めるという我が国の原子力政策は、GNEP構想の目指す所と基本的な方向性は同じである

と考えます。

## 5 . G N E P への我が国の貢献について

( 研究開発 )

( 高速炉サイクル技術 )

G N E P においては、核拡散抵抗性が高い再処理や燃料製造技術、そして製造された新型燃料を燃焼する先進リサイクル炉 ( A R R ) の研究開発を行なうこととしています。

我が国は、この分野において、長きに亘る研究開発を行ってきています。この経験から、我が国はこの分野で G N E P に貢献できると考えます。

( 中小型炉 )

また、G N E P では中小型炉の開発を目指していますが、このことにおいても、我が国の民間企業が有する高い技術力により貢献できると考えます。

## 6 . 結語

( 我が国の G N E P への積極的貢献 )

我が国としても、G N E P の主旨に賛同し、今後とも積極的にその実現に貢献していきたいと考えています。

ご静聴、ありがとうございました。

( 了 )